

オランダ産

こう しつ とう き ざら

硬質陶器皿

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し^①の出土品を、月替わりでご紹介。

今回は、ヨーロッパからやってきた皿^②です。

■ 出土地：首里城跡（那覇市）

この皿は、首里城跡^{かん かい もん}歓会門^{きゅうけいもん}・久慶門地区の発掘調査により出土したものです。器内^{き ない}全面には東洋的な風景がプリントされ、高台内側^{こう だい}に **WILLOW**（ウィロー）の文字をぶどうの葉で囲んだスタンプが見られます。この図柄（ウィロー・パターン）は、中国磁器^{じ き}の楼閣山水図^{ろうかくさんすいず}をもとにイギリスで考案されたもので、のちにオランダでも生産されました。

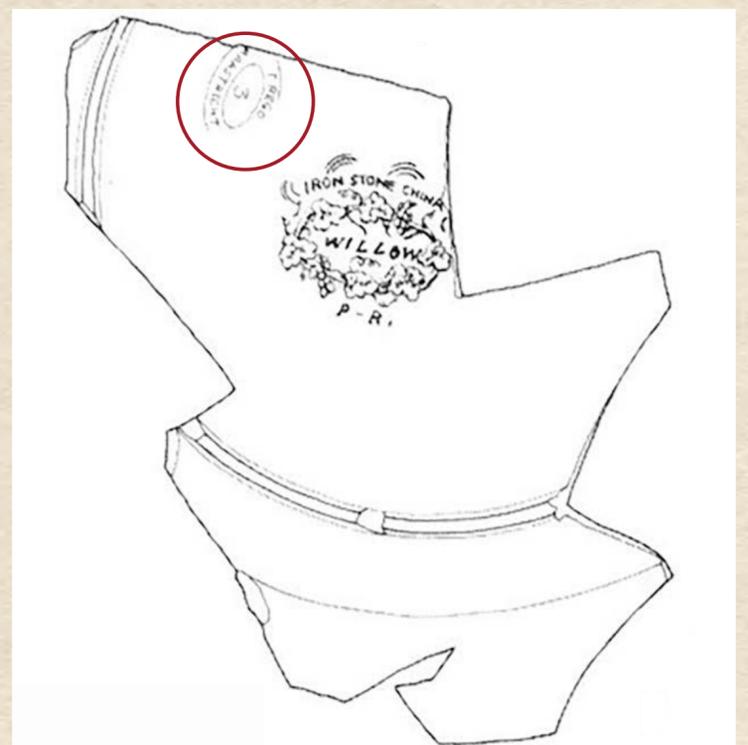
首里城跡で出土した皿には、高台内側に「**P. REGOUT MAASTRICHT**」の刻印があることから、19世紀中頃にオランダのペトウルス・レグウー社で焼かれたものと判ります。この時期に西洋文化と接していたことを物語る貴重な資料です。



参考資料：藍絵楼閣山水図皿

(オランダ ペトウルス・レグウー 19世紀中頃)

出典：憧れのヨーロッパ陶磁



○で囲んだところに「**P. REGOUT MAASTRICHT**」の刻印が見られる。